松江商工会議所

地域経済季報

令和8年7～9月期

総評 今期建設業は、一部で調達遅延が残るものの資材流通に改善の兆しが見られたが、金利上昇・資材価格高騰の影響から民需が低迷。公共工事の減少や作業員不足による受注見送りもあり、下げ止まり傾向となった。製造業では農業機械分野で補用品の一時的な需要増が見られた。卸売業では価格の転嫁難や供給の滞り、販売先の在庫増に伴う需要の低下が続いた。小売業では、物価高騰に対する生活支援として配布された「おまっちぇお買物券」による下支えはあったものの、節約志向から衣料品は低迷。スーパーも価格上昇で客単価は上昇したものの、買い物頻度の低下や価格競争により横ばい傾向となった。一方でエアコンは新省エネ基準引き上げ前の駆け込み需要により堅調に推移した。また車購入時に課税されていた環境性能割の廃止や新型車・大幅改良車の投入効果が重なった自動車も新車登録台数を伸ばすなど商材間で明暗が分かれた。観光関連のサービス業などでは、ドラマ「ばけばけ」に加え「VIVANT」の効果も重なったことに加え、米子空港国際定期便の再開・増便や境港に寄港するクルーズ船によるインバウンド客の取り込み、シルバーウィークも追い風となり、好調に推移した。来期は、秋の行楽やイベントシーズンの到来に伴う需要が期待される一方、神在祭の開催期間の集約に伴う宿泊需要の減少や、ドラマ効果の漸減が懸念される。また、取引先の在庫過多による受注減少や最低賃金引き上げに伴う人件費負担の増加、慢性化するドライバーや技術者等の不足、長年にわたり当地の製造業分野で中核的存在であった農機メーカー撤退による代替受注の確保、食料品消費税率1%適用を見据えた準備などが喫緊の課題となっている。断続的なコスト高に対応するための適切な価格転嫁の推進、需要動向を踏まえた適切な在庫管理、人手不足に対応するための生産性向上と労働条件の改善、変化する市場環境に合わせた新規取引先の獲得が地域経済回復に向けた鍵となる。

		前期状況（4～6月期）	今期状況（7～9月期）	来期見通し（10～12月期）	調査事業所のコメント
建設業		↘	→	→	今期は、前期からは改善しているが引き続き資材の流通が安定せず、調達遅延による工期延長も一部でみられた。 松江市では「建設工事における猛暑対策」について、発注段階における猛暑期間（7月～9月）を回避した工事発注や施工段階では猛暑時間の施工回避などが新たに9月1日より実施された。 全国建設業協会の調査では、全国的に公共工事の発注量が減少しているほか、技術者不足による受注見送りも発生しており、共通した課題となっている。
製造業		↘	↘	→	今期は、引き続き原油価格の高止まりと特定の資材における品不足が継続。また、昨年同様に猛暑が続き、熱中症対策を始めとする従業員の労働環境の整備が地元製造業の経営の大きな負担となった。農業機械分野では補用品の発注によって、関連する企業の売り上げは一時的に増加。しかしながら本年9月末で長年にわたり当地の中核的企業であった農機メーカーが事業撤退したことにより将来的な代替受注の獲得が今後の課題。また、熊本地震での製紙工場への被害による管内製造業者への影響はほぼ聞かれなかった。来期は全国的に商談展示会が多く開催される時期であり、新規販路開拓・顧客獲得に期待。
卸売業		↘	↘	→	今期は、仕入価格の高騰に対して販売価格への十分な転嫁が進まない中、熊本地震の影響による供給の滞りも相まって、悪化傾向にあった。また、販売先での在庫積み増しの反動や、物価高に伴う節約志向の高まりによる需要の冷え込みを指摘する声も聞かれた。来期においても、原材料の高騰と供給網の滞りという二重の打撃により厳しい経営状況が続くとみられ、中東情勢の影響による供給難は解消されたが、販売先は既に在庫を厚くしているため、足もとの需要は弱く、当面の受注は減少となる見込み。
小売業	衣料品	↘	↘	→	今期は、松江市により地域経済の活性化を図る物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金活用事業として「おまっちぇお買物券」が実施されるも消費者の節約志向などを背景に売上が伸び悩んだほか仕入れ価格の上昇もあり、利益面では厳しい状況となった。 来期は、今年の冬は暖冬傾向が予想され、冬物衣類の動きが例年に比べて鈍化する懸念があり、適切な在庫管理に務め、収益の改善を図ることが求められる。
	家電	↗	↗	→	今期は、夏前と同様に、来年に予定されている省エネ基準の引き上げを前に、エアコンの買い替え需要が引き続き堅調に推移した。特に高額機種の需要も見られ、売上は前年を上回る動きとなった。一方で、メーカー側の供給不足により商品の入荷が遅れ、設置工事の時期が後ろ倒しになるなどの影響も生じている。 来期も、引き続きエアコンの需要が見込まれるほか、IHクッキングヒーターやエコキュートなどの住宅設備関連商品が主力となる見通しである。
	自動車	↗	↗	→	今期は、環境性能割の廃止に基づく税制変更や、新型車や大幅改良車の投入効果も重なり普通乗用車・軽自動車ともに総じて新車登録台数は増加。 来期は、物価上昇による消費マインドの弱さが引き続き目立っているものの、消費者志向の多様化や環境対応車の拡充、軽自動車の市場の活性により、登録台数は横ばいを予想。
	スーパー	→	→	→	今期は、商品価格の上昇により客単価は上昇し、売上は堅調に推移したものの、物価高などを背景に消費マインドは依然として弱く、買い物頻度の低下により客数は減少傾向となった。米は新米への切り替えに伴い前年産米の在庫が増え、価格競争が強まった。お盆期間は長期化したことで需要が分散し、例年に比べ売上のピークが捉えにくい状況となった。また、競合店との価格競争もあり、コスト上昇分の価格転嫁が難しい状況が続いた。 来期は、引き続き節約志向が続くなど、個人消費は慎重な動きが続くことが見込まれる。
	特産品	↗	↗	→	今期は、シルバーウィークが連休となったことに加え、NHK連続テレビ小説「ばけばけ」や「VIVANT」など、ドラマの効果も一部に見られ、前年同期と比べ売上は増加傾向にある。また、米子空港と台北・ソウルを結ぶ国際定期便の運航により、台湾や韓国をはじめとするアジア方面からの観光客も増加している。クルーズ客船の境港寄港時には欧米からの観光客も見られ、工芸品等の売上増加につながっている。 来期は、原材料や包装資材の価格高騰に伴う価格改定が予定されている一方、ドラマによる観光需要も一定程度期待される。「ばけばけ」の影響は徐々に弱まっているものの、秋の行楽シーズンを迎えることから、観光客の増加による需要の取り込みに期待したい。
サービス業	飲食	→	↗	→	今期は、観光需要は「ばけばけ」「VIVANT」効果もあり好調。地元需要は猛暑や物価高の影響を受けたものの「おまっちぇお買物券」の利用もあり、総じて好調に推移した店舗が多かった。 来期は、秋の観光・イベントシーズンに入ることから、引き続き観光需要に期待する。一方、最低賃金引き上げに伴う人件費負担増、人手確保難に加え、来年4月からの食料品消費税率1%を見据えた対応も迫られる。
	旅館・ホテル	↗	↗	→	今期は、「ばけばけ」や「VIVANT」などのドラマ効果による観光需要の高まりから、宿泊者数は前年を上回る動きとなった。一方、来期は、昨年11月から12月にかけて行われた神在祭が、今年は11月のみとなることに加え、宿泊需要を下支えするそのほかの行事がないことから、前年同期と比べて宿泊者数は減少する見込みである。また、最低賃金の引上げに伴い、人件費の増加が見込まれるなか、神在祭などの特定の行事に宿泊需要が左右されやすいことから、繁閑差への対応と安定した収益の確保が課題となる。
	運輸・旅客	↗	↗	↗	今期のタクシー事業では、スマホアプリを経由する予約配車サービスが順調に推移している。来期も観光客や県外からの出張の方の利用が見込まれており、併せて運賃の改定や労働条件の改善に期待する。貸切バスは、前年並みに推移しており各空港との連絡バスも好調を維持している。 運送業については、資材費・燃料費の高騰や、ドライバー不足・高齢化が慢性的な問題になっている。来期では、最低賃金の引上げや物価高騰が続くことが見込まれ利益を圧迫し厳しさを増すと思われる。

※売上の前年同期比について↗→↘により表しています。